

平常時

目標：災害が起きる前に要支援者と顔が見える関係づくりを進めましょう

自助の推進

家具の転倒防止の案内・手助け



家具の転倒は、避難の妨げになるだけでなく、命を落とす要因にもなります。

防災情報ツールの確認

災害時に情報を得る手段は一つではありません。可能な限り、様々なツールを使えるようにしておくことが重要です。



非常持出品、避難所の確認

日頃からの備えの確認は、いざという時の円滑な避難につながります。また、人任せにならないことで、自助力もアップします。



共助の取組み

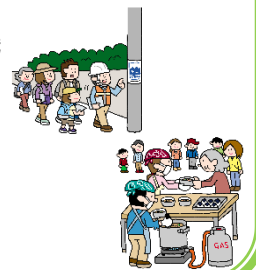
日頃からの声かけや見守り

日頃からの声かけを実施することで顔見知りになり、いざという時、信頼関係を持って支援できます。



地域イベントや訓練への参加促進

イベントや訓練への参加を契機に、顔の見える関係が築けた例もあります。市内でも黄色旗を用いた安否確認訓練の実施例があります。



地域の体制づくり

日頃から協力が必要とされる機関と連携を密にし、顔の見える関係をつくりましょう。例えば、自治会や自主防災会、民生委員といった地域の関係者が集まり、同意者の状況についての情報交換や、支援体制について話し合う場を設けることも大切です。

個人の備え、防災意識の促進を図ることで、

- できることとできないことが明確化します
- 災害時に必要な避難支援の範囲が分かります
- 支援者も被災者であることが理解されます

顔の見える関係づくりのためには、次のようなことが重要となります。

- 地域住民と当事者が接する機会を増やすこと
- 代表者や民生委員・児童委員だけでなく、地域の中で知っている人を増やすこと

《訪問時のポイント》

- あらかじめ電話などで都合を伺い、訪問する日時や留意事項等を確認しましょう。
- その際は、木更津市から提供された名簿の情報にもとづき、災害時の支援等について話をするために訪問することも伝えましょう。
- 要支援者がひとりで会うことが難しい場合には、親族や緊急連絡先として登録している方などに同席していただくと良いかもしれません。
- 地域行事のチラシなども持参して訪問すると、会話がスムーズに進むかもしれません。
- 訪問時に聞き取った情報は、災害時に必要な支援を行うためのものであり、その目的以外に使用しないことを伝えましょう。

災害時

目標：支援者も被災者です！無理のない・できる支援を行いましょう

電話等による安否確認

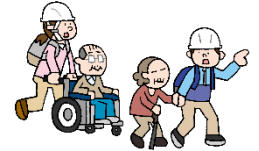
自分で避難できない人や危険な地区に住んでいる人など、名簿を見て電話や訪問などで安否を確認します。他の支援者と割り振りを事前に決めておけば、重複を防げます。



自宅を訪問し、避難所へ一緒に避難

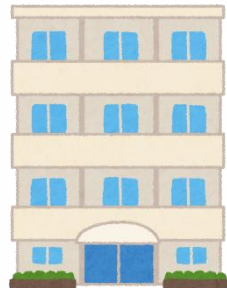
自分で避難ができない人は、付き添っての避難を検討します。

ただし、事前に個別で話し合っておくことや地区内で共有しておくことが大切です。



マンションの階段を下りるお手伝い

発災時は、停電等によりエレベーターが停止して、階段を下りられない要支援者がいるかもしれません。例えば同じマンション内で気になる人を把握していれば、避難時にお手伝いができます。



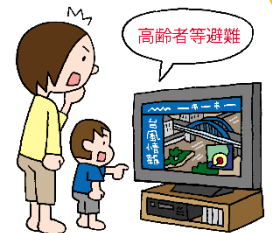
※一人で抱え込まずに周りの人の協力も借りることが重要です。

災害情報の伝達

要支援者の方々は、危険を知らせる情報を受けとることが困難であったり、速やかに行動することが難しい方です。

例えば、台風や大雨は事前に予測ができるので、水害や土砂災害が起きる前に避難できます。事前に安全を確保できるよう、「声かけ」を行うことが考えられます。

行政の発信する防災情報などをお知らせし、状況に応じて安全な自宅の上階への避難や、安全な建物への立退き避難を促しましょう。



避難支援の形は一つではありません。自分たちの地域では、どのような避難支援が可能かを検討しましょう。（支援者自身や家族の安全を確保していることが前提です。）

支援者であっても、まずは自分や家族の安全確保が第一となります。

災害時における要支援者への支援は、支援者の善意によって成り立つものであり、権利・義務の関係は発生しません。そのため、災害時に支援をする方が要支援者を支援できなかったとしても、法的な責任は発生しません。

問い合わせ

木更津市役所総務部危機管理課

TEL 0438-23-8194